

2. 発表及び討議

〈1. 木造建築〉

1-1 概要

DHUP 建設品質・持続可能開発部長 エマニュエル・アシャルディ

簡単に FCBA の発表を紹介したいと思います。

紹介するのはどういう内容かということ、フランスの政府はどのような支援策があるかということです。4つの点があります。

まず、法律的な枠組みです。絵があります。それは、昨日既に説明しまして、新しいものは2018年に住宅、そしてデジタル化などの分野については採択されました。その中では、木材・木造建築についてのもも入っています。これは、この法律の中の一つのパートである環境関係の法律、規則です。これは、2020年で特に省エネ関係のものに関して、木材・木造建築に適用されます。

そして、プレハブ関係のものもありまして、法律の中で定義されています。もちろんプレハブでしたら木造に限らないですけれども、木造も含まれています。

そしてもう一つ、国のレベルの計画があります。これはフランス大統領が望んだことで、各省関係の計画であります。昨年の末に採択された計画です。

これは、林業、木材産業などを全てやって、上流（森林）から下流（建築業及び家具業）までのものは含まれています。ということで、森林の産業から建築までの木材関係のものは全て含まれています。

3つ目ですけれども、第3回のウッドプランがあります。プラン・エン・ボアとフランス語で言います。ウッドプランは、第1回からずっと同じような目的ですけれども、10年前から採択されています。これは、フランスにおける技術的な障害、文化的な障害、あるいはその他の障害がある場合は、それを取り除くような計画になります。ウッドプランはどのような支援で動いているかということ、もちろん国の支援もありますけれども、産業、企業などの支援もあります。

最後ですけれども、産業戦略協定というものについて触れたいと思います。木材ということは性能としては承認されまして、産業として認められていることによって産業戦略協定を結ぶことができます。その協定の参加者は、もちろん国、企業そして自治体による協定です。

その目的としては、全ての関連者、これは国も含めてなんですけれども、関連者が一緒になってこれを産業として盛り上げようということです。その関連ですけれども、幾つもの大きなプロジェクトがありまして、1つは2024年にパリで開催されるオリンピックです。

2024年のオリンピックのために建設される建物は、生物学的起源の建設資材を使うような約束をしました。こういうことによって木材産業が大きな役割を果たすことになりまして、大きな量にもなりますけれども、あとは期限がありますのでそういう技術の力にもなります。

ということで、国は木材関係の産業を支えていきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございます。